

ボーン・アイデンティティ  
“Born” Identity



政治経済学部3年  
嶋田奎介

# 人格とは



人格の定義/近接概念との比較

# 人格の定義



Personality is the dynamic organization within individual of those psychophysical systems that determine his unique adjustment to his environment.

人格は個人の環境への適応を決定するような心理的身体的な諸々のシステムからなる、個人の中の力動的組織である。

# 近接概念との比較



- ✧ 人格(Personality)...語源はペルソナ(Persona)。社会生活を通して形成される役割的なもの。
- ✧ 性格(Character)...経験を通して刻み込まれた、持続的で一貫した行動様式。
- ✧ 気質(Temperament)...人となりの特徴の基底をなす比較的永続的な部分で、情緒性にかかわる。

Cf.個性...もっとも生得的な部分を中心として気質、性格、人格の関係を示したもの。

# 性格をとらえる枠組み



類型論 / 特性論 / 力動論

# 類型論(ユング)



- ☞ 外向型/内向型...興味や活動が自分の外/内の世界へ向く傾向がある性格。
- ☞ 外向/内向の次元に、施行・感情・感覚・直観の心的機能を考えて類型化した。

例：外向思考型、内向感情型...

# 類型論(クレッチマー)



- ✧ 体格によって性格が分類できると主張
- ✧ 痩せ型：「分裂質」神経質で敏感
- ✧ 闘士型：「粘着質」粘り強いが感情が爆発しやすい
- ✧ 肥満型：「循環質」躁鬱が多く、社交的だが気分屋

# 類型論の特徴



- ☞ 細かい特徴の取りこぼしや切り捨てが不可避。  
→ 大きな傾向を分類することで完結で直感的な性格理解が可能



# 特性論



- ☞ 性格を細かい要素の組み合わせでとらえようとする  
性格特性  
→ 「個人特性」と「共通特性」に分類
- ☞ 性格特性は5つの次元に集約される(ビッグファイブ)

# ビッグファイブ



神経症傾向	外向性	開放性	調和性	誠実性
不安 敵意 抑鬱 自意識 衝動性 傷つきやすさ	温かさ 群居性 断行性 活動性 刺激希求性 よい感情	空想 審美性 感情 行為 アイデア 価値	信頼 実直さ 利他性 応諾 慎み深さ 優しさ	コンピテン ス 秩序 良心性 達成追求 自己鍛錬 慎重さ

# 力動論



∞ 人格を異なった部分に分けて、その部分同士の相互作用をみることで人格を理解し、記述しようとするもの。

∞ 人格を「意識」と「無意識」分ける

byフロイト

# 防衛機制



☞ 心のバランス崩壊を防いだり回復させる働き

抑圧	あまりに恐ろしいことや苦痛な記憶を意識から締め出すこと
合理化	合理的に行動したと見えるように自分の行動に論理的・社会的に望ましい動機を当てはめること
反動形成	正反対の動機を強調することである動機を隠すこと
知性化	抽象的・知性的用語を使い、ストレス状況に対処することでそこから離脱しようとする

# 性格の変化



遺伝の影響/環境の影響/モード性格/性格を変えるには

# 遺伝の影響



☞ 性格特性も遺伝する(行動遺伝学)

性格の遺伝率は40%

気質は60%

趣味・嗜好は20%以下

# 環境の影響



☞ 一般的には家庭環境が一大要因と考えられている  
しかし！

——→ ある兄弟を行動遺伝学が研究すると、兄弟が共通して経験する環境よりも別々に経験する環境の方が性格に大きな影響を与えると判明。

知能→共有＞非共有

性格→非共有＞共有

# モード性格と多重人格



☞ モード性格...状況に合わせた性格の変化

- ・それぞれの性格が状況に連動している
- ・状況が戻れば性格も戻る(可逆性)

※多重人格...同じ状況でも違う人格が現れること

※性格変容...人生上の強烈な体験や環境の大きな変化によっておこる変化。一度起こると元の性格に戻ることはない(不可逆性)。



# 性格を変えるには



☞ 状況や環境の変化が重要。

「気の持ちよう」や「意識改革」でどうにかできる問題ではない。

「いやな性格」も現環境への適応と関係している

# 自然科学から考える人格



「ロボットモデル」批判/脳科学から見た人格

# ロボットモデル



## ∞ S-R図式

生物の行動は全て刺激に対する反応で説明できる  
刺激がなければ行動しない原理はあり得ない！

## ∞ 平衡原理

心の平衡を取り戻すために行動する  
わざと平衡を崩す行動をする者もいるのでは？

# 脳科学からみた人格



## ∞ 大脳新皮質・大脳辺縁系

前頭前野は「自我・意識の座」と呼ばれている

大脳辺縁系は情動的な反応や感覚記憶を司る

# 脳の可塑性



- シナプスの結合は冗長的。環境にとって有効な結びつきは残って成長し、不要なものは消滅することで特定の環境に適応していく。

# 本発表の目的



- ❧ 自分を変えたい、変えようとして入部した人はいいますか？
- ❧ まずは自分を分析し、環境を分析し、そこに適応できる人格を作り出すことを考えてみてください

# 参考文献



無藤隆、森敏昭、遠藤由美、王瀬耕治(2004)『心理学』有斐閣  
サトウタツヤ、渡邊芳之(2011)『心理学・入門』有斐閣アルマ  
大山泰宏(2009)『新版 人格心理学』日本放送出版協会